



花ある人々

移住女子座談会

移住の支援策とベッドタウン化

司会——南部町では移住者向けに、仕事と暮らし支援として、新規就農者支援、空き家・空き地バンク等利活用促進、若者向け住宅環境整備（チェリータウン桜場宅地分譲住宅分譲事業）、新婚新生活支援事

業、移住・定住等イベントの取り組みなどを実施しています。また、2軒のおためし住宅も整備しました。移住する際に町の支援策を利用された方はいますか。

田中——「空き家バンク」（※2）と「お試し住宅」を利用しました。空き家バンクで見つけた物件は修繕が必要な状態だったので、改修期間の1カ月間、お試し住宅に住まわせていただきました。

司会——田中さんは南部町移住者受入協議会のメンバーですね。

田中——メンバーは10人ぐらいで、割と年代は幅広いです。昨年度は武良さんも一



トマトのわき芽摘みを子どもに教える広太さん

緒に活動しました。任期が2年なのですが、2年に入れ替わるのは良くないのではないかと、意見が昨年度の反省として出て、O・B・OGという形で関与して情報を伝えていく方がいいのかなという話しています。

司会——田村さんはご主人と一緒に「自給自足実践フィールドうちみる」を運営し、環境に配慮した実践をいろいろされていますが、町の移住・定住対策と連携してやったことはありますか。

田村——それはいいです。夫は「うちみる自給自足スキル講座」で、廃材を利用して小屋を建てる全8日、16講座を開講しましたが、家づくりの経験があったわけではなく、独学で学んできました。スキルはたぶん上級編なんですけど、すぐく意欲が高いとか、別の地域である程度DIYぐらいは自分でやっていたという人に、引越して来た段階で教えることは可能です。でも、それをきっかけにして移住者を増やすというのは難しい気がします。

司会——武良さんは移住者目線での情報発信など、考えていることはありますか。

武良——私の場合は外国人とのネットワークがあるので、首都圏に住んでいる外国人をこちらに呼ぶという活動を、協力隊の期間中にやりたいと思っています。フェイスブックに南部町の景色をよく載せていますが、「私の国と同じです」と言ってくれる人は多いですよ。



ハウスの脇の道路を歩く
田中さん家族

司会—— 国の支援策とともに南部町の新規就農者支援(※3)は手厚いのですが、皆さんは利用されましたか。

高木—— 町独自のものではなく、国の事業は利用しています。

司会—— チェリータウンは町外からの転入者で60歳未満の方は50%割引など、さまざまな優遇対策をしています。

高木—— 移住という点、どうしても農業に集中しがちですが、南部町は本当に立地がいいので、ベッドタウンとしての移住者を誘致するというのは重要なことだと思います。チェリータウンは剣吉駅前であり、安くて、非常にいい施策だと思います。子どもが来ないと人口は増えませんから。



畑の傍を流れる馬淵川土手を散歩する
田中さん家族。
背後に名久井岳が見え、
町民の散歩人気スポットでもある



ミニトマトの
ビニールハウス前で
田中さん家族4人

田中 綾乃／兵庫県神戸市出身。大学卒業後、鳥取県に居住し、鳥取県移住アドバイザーに就任。令和元年(2019)南部町出身の夫(広大)と共に同町に移住。夫と新規就農する。夫と長女(6歳)、長男(3歳)の4人家族。下名久井在住。



田中—— チェリータウンには小さいお子さん連れで移住されている世帯が多くて、ご主人の職場が八戸で、奥さんが仕事をされていないご家庭もあります。今年はトマトの収穫にチェリータウンのママが数名来てくれることになりました。私たちはこれから、そういうつながりができるとと思っています。

司会—— ベッドタウンでは新旧住民の交流が難しいという話も聞きます。

高木—— 子どもを持った家庭では農業体験をさせたいし、日中に時間のある主婦は農家の手伝いをしたい人もいます。また、子どもがいれば学校を窓口にして交流ができ、新旧の人間関係の風穴になるのではないのでしょうか。

子育てについて

司会—— 町の子育て支援策(※4)に関してはどうですか。

高木—— 家計的に助かったのは小中学校の給食費無料ですね。あとはチェリーこども園の「ぴっぴクラブ」を利用させてもらって、そこで会ったお母さんと友達になったりしました。

田村—— 「ぴよすくーぽん」を毎月使わせていただいています。子育て支援センターには、子どもが1歳を過ぎた頃、近くの福祉こども園に何回か遊びに行かせてもらいました。